



はいはいからつかまり立ちになる頃、引き出しを開けて中身を出したり、大切なものを壊したり…
叱るべきなのか、しつけとしてどうしたらいいのでしょうか？

はいはいから立ち(つかまり立ち)ができるようになり、世界がぐっと広がります。大人にしてみたらどこへ行くのかわからないので、目が離せません。大人は危険がないようにとそばについて見ただけで大変です。引き出しを開けて中身を全部、外に出してしまったり、大切なものを壊したり、「いつも家の中が散らかりっぱなしでもういや！」「怪我をしたら大変だからつい大きな声をだしてやめさせたり」とイライラしてしまいますよね。

でも赤ちゃんはもともと好奇心のかたまりのようなものです。自分で自由に行動できるようになると、周りにあるものを何でも確かめたくくなります。

探索行動といって、これは乳児の発達にとっても大切な意味をもつものです。

この時期の赤ちゃんは、毎日「これは何かなあ??」とワクワク、ドキドキしながら過ごしています。目を離れたときにコップの水をジャーっとこぼしたり、トイレの紙をグルグルと引き出してしまったり、大人から見ると困った行動でも、赤ちゃんにとっては魅力いっぱいの探索なのです。

「あれもダメ、これもダメ」と禁止言葉ばかり発していると好奇心が薄れ、やる気のない子に育ってしまいます。危ないものや手にして困るものは赤ちゃんの手の届かないところにしまい、探索を見守ってあげることが大切です。いたずらではないこと、これからの成長に必要な過程であることを大人が理解してあげましょう。

